

地域を支える看多機

第1回

公益社団法人 福岡県看護協会
看護小規模多機能型居宅介護 すびか☆くるめ
(福岡県久留米市)

2012年の介護報酬改定で誕生した複合型サービス。15年には看護小規模多機能型居宅介護(以下、看多機)と改称され、「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」の4つのサービスを一体的に提供し、地域での在宅療養の拠点として期待されている。本連載では、医療的ケアからレスパイト、看取りまで対応する看多機の活動を紹介する(全2回)。

看多機で支える「その人らしさ」

福岡県久留米市に、同県看護協会立の訪問看護ステーション(ST)「くるめ」に併設する形で、看多機「すびか☆くるめ」が開所したのは2015年。当時は現在より看多機が少なく、幅広いサービスゆえに、その役割や機能が十分に周知されていなかった。それはサービス利用者だけでなく、提供する側も同様だった。開所までの経緯について「正直、未知数でした」と振り返るのは原島光代統括所長。近隣の看多機を視察し情報収集することから始め、その後、久留米市の担当者とも看多機の必要性を協議し、県看護協会内でも委員会を立ち上げ、実施に向けた検討を2年以上重ねた。その結果、地域に必要なサービスとの結論が出て、開所に至った。

「すびか☆くるめ」管理者の真木隆子さんは開所当初について「現場も手探りでした」と振り返る。当時、訪問看護ST「くるめ」に在籍していた真木さんも外から見るだけではメリットを理解しづらかったようだが、看多機で勤務することで「住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるよう支援できる」という強みを実感できた。例えば、退院直後で在宅療養への移行に不安があるケースでは、看多機の「泊まり」と「通い」を利用して、徐々に自宅での療養生活に慣れることができる。「訪問看護」や「訪問介護」を顔なじみの看多機のスタッフが担当してくれることも利点となっている。また、4つのサービスを1事業所で提供するため、利用者の体調などをスタッフ間で共有しやすい。「利用者の情報は毎日の申し送りでも共有します。その時の利用者の状況に応じた、より良いケアができています」と原島統括所長も話す。

利用者の満足度を大切に 地域社会の信頼を得る

「すびか☆くるめ」の利用者ニーズは多様で、退院後に在宅復帰に向けて一時的に利用するケースもあれば、医療ニーズがありながらも在宅での療養生活を希望する方へ、訪問看護や「泊まり」で支援するなど幅広く対応する。また時に介護を担う家族のレスパイトとして「泊まり」も利用できる。多様なニーズに応える看多機のサービスの満足度は高く「使っていただくとその良さを分かっていたいただけます」と真木さんは話す。

看多機の機能が生かせる場面は、医療ニーズ



「すびか☆くるめ」祭り。地元ボランティア、看護学生、民生委員もスタッフとして参加してくれる

の高い高齢者への対応だけではない。ことし4月、久留米市から、医療的ケアを必要とする障害者・児を対象とした短期入所の指定を受け、共生型障害福祉サービスも開始した。これまでに短期入所や日中の一時預かりなどのサービスを提供しており、医療的ケアを必要とする子の親からも好評を得ている。

地域住民との顔が見える関係の構築にも力を入れている。その1つが「すびか☆くるめ」祭り。年に一度事業所の一部を開放し、医療・介護に関する相談やさまざまなブースを用意して、住民が楽しめるようなイベントを開催している。いざという時や困った時に「そういえば」と思い出してもらえることを目指している。今年の参加者は80人と盛況だった。イベント参加者が、看多機に後日立ち寄ってくれることもあるという。

開所から5年、「すびか☆くるめ」がこれまで培った地域の信頼とつながりが、安心して暮らせるまちづくり、そして地域包括ケアの推進に向けて実を結びつつある。